県特研アンケートへの回答

唐津特別支援学校

1．スケジュールや手順の提示方法で IT 機器を活用事例があれば紹介下さい

〇考えられる例として

タブレットによる 1 日のスケジュール提示

iPad などで 1 日の予定を写真やイラストで提示

終わった活動はタップして消す

次の活動を色で強調する

①朝の会　②作業学習　③給食　④清掃　⑤帰りの会　などの場面で

2．子どもたちと将来の事や目標を考えるときに、気を付けていること等あれば知りたいなと思いました。

「本人が前向きな見通しをもてること」と「具体的な一歩を見つけること」を大切にしています。目標設定は成功体験や自己理解につながるように配慮することが重要だと思います。

① 「できないこと」ではなく「できること」から考える

苦手さや課題ばかりに目を向けない

好きなこと、得意なこと、褒められた経験を確認する

「〇〇が好きだから、この仕事も向いているかもしれないね」と強みを生かして考える

例　機械いじりが好き → 工場や整備関係

人と話すのが好き → 接客や販売

動植物が好き → 農業や園芸関係

② 遠い将来より「次の一歩」を考える

将来を漠然と考えることが苦手な場合があるので、「10 年後どうなりたい？」より「卒業後にどんな生活をしたい？」「まずできるようになりたいことは何？」というように、小さな目標に分けて考えるとよいのではと思います。目標はスモールステップで設定することが有効だと考えます。

③ 本人が決める（考える）ことを大切にする

「どんな仕事に興味がある？」「どんな大人になりたい？」「どんな生活を送りたい？」と本人の思いを聞く、実現が難しい内容でも、まずは受け止めて本人の主体性を尊重する。このことが目標への意欲につながるのではないかと考えます。

④ 成功体験につながる目標にする

生徒は失敗経験を多く重ねていることがあります。そのため、「毎日完璧にできる」ではなく、「週に 3 日できる」「一人で取り組めることを 1 つ増やす」など達成可能な目標を設定したい。具体的で達成可能な目標設定が大切だと思います。

⑤ 仕事だけでなく「生活」の視点も大切にする

特別支援学校では職業だけでなく、朝起きる、時間を守る、お金を使う、困った時に相談する、ストレス発散をするなど、卒業後の生活を支える力も重要です。

「どんな仕事に就くか」だけでなく、「どんな生活を送りたいか」という視点も必要だと思います。

※意識したいこと

進路指導は「就職先を決めること」だけでなく、「自分を知り、自分らしい生き方を考えること」でもあると思います。そのため否定しない、急がせない、他人と比べない、小さな成長を認めることを大切にしたいです。

3．毎日同じで飽きたとか、指示通りに動かされているから嫌だ、と感じるお子さんもまれにいらっしゃるのでしょうか。そのような場合は、どのように対応されているのでしょうか。

中学生や高等部になると、「いつも同じことの繰り返しでつまらない」「先生に言われたことばかりやっている」「自分で決めたい」「子ども扱いされたくない」という思いを表現する生徒もいると思います。

これは必ずしも支援を嫌がっているのではなく、自立心や自己決定への欲求が育ってきたサインとして捉えられることもあります。

① 不満を否定せず受け止める

まずは「毎日同じで飽きることもあるよね」「自分で決めたい気持ちがあるんだね」と気持ちを認めます。「どうしたらもっとやりやすくなる？」と一緒に考える。

② 支援を減らすのではなく「選べる部分」を増やす

「今日はこれをしてください」ではなく「先に水やりをする？」「草取りと収穫のどちらから始める？」というように選択肢を提示する。意思決定支援では、選択肢を整理して提示し、その中から本人が選ぶ経験を積み重ねるようにする。

③ 新しい役割を任せる

例えば、リーダー役、後輩への説明役、販売計画を考える係、作業分担を決める係など、「やらされる側」から「活動をつくる側」へ立場を変えることで主体性が高まるのではないか。

④ 生徒と目標を一緒に作る

教師が決めるのではなく「今学期、何を頑張りたい？」「どんな力を付けたい？」と本人の希望を聞きながら目標設定します。

⑤ あえて試行錯誤を経験させる

自分で選ぶ、やってみる、振り返るという経験も。

「思ったようにならなかったけれど次はどうする？」と考える機会が自己決定力につながります。

4．この支援で成功体験を重ねた生徒に対し、あえて失敗やできなかった場面を仕掛け、ヘルプを出させる段階もあるのでしょうか。

意図的に、うまくいかない場面を作ることはしていません。あくまでもうまくいくようにする支援、または、うまくいくように考えさせるための支援を考えて行っています。

5．生徒の成長や伸びに合わせて、補助具の形態は変更されるのですか？それとも、同じ補助具を使用して製品をどんどん作っていくのでしょうか。

次々と新しいものを作るわけではないですが、必要に応じた改良は行います。補助具の共有ということはあると思います。

6．どこから時間を捻出し、子供たちの様子と活動内容が合っているかの検討をし、子供たち一人ひとりの支援のことを考え、補助具を作ってあるのかなあと思いました。

どちらの学校でも共通するところだと思いますが、退勤時間までにすべて済ませているわけではありません。それぞれの思いで進めていると思います。